

令和7年度  
スクールエンパワーメント  
事業報告

千早赤阪村立中学校

2025年12月9日  
SE担当

# 報告のもくじ

1. 基本方針
2. 昨年の反省
3. 今年度の共通指標
4. 各教科での取り組み
5. 今年度の結果と分析
6. 授業改善に向けて
7. 今後の課題
8. 今日のこれから



# 基本方針

「考える・書く・伝える」

千赤スタンダードの「考える・書く・伝える」に基づいて基礎学力の定着を中心に生徒が「わかった」と実感する授業をめざす。

各教科において重点的に意識していくことは、昨年度と同様「考える・書く・伝える」。同じスローガンを続けることで継続的な学力向上を目指す。

その中で、各授業づくりで意識して

- ① 「授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある」
- ② 「授業中、自分の意見や考えを伝える場面がある。」
- ③ 「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている」
- ④ 「授業中、これまで学習した内容や今の学習に関連のある内容を振り返る機会がある」
- ⑤ 「授業中、本時のめあてが提示され、学習内容や授業の目的がわかるようになっている。」

の5項目を達成できる授業づくりをする。



# 昨年度の反省

思考・判断・表現の力をつけて

各教科がふり返って  
思考・判断・表現等を伸ばすための**基礎的な学力を上げていく**  
必要がある。

⇒例：語彙力、計算力、

思考・判断・表現等の力をつけることは引き続き意識したい。



# 今年度の共通指針

## チャレンジテストの得点率

大阪府チャレンジテストの「知識・理解」の得点率の大坂府との差の経年変化。

思考・判断・表現等や全体の得点率も見ていく。

現3年生は1～3年生のデータを分析

現2年生は1～2年生のデータを分析

※2年生は1月実施



# 授業改善に向けて

## 授業参観ウィーク

3週間で1人以上の先生の授業を見に行き、学んだことを1枚のスライドにする。

### 【書くこと】

- ・見学した日程・时限・教科・先生の名前
- ・『「考え・書く・伝える」による基礎学力の向上』を基にした授業を行うにあたって学んだ点
- ・それ以外の点で学んだところ
- ・授業者に向けての感想



# SE通信の発信

## 先生方に向けて

- 先生方の授業を見学に行ったことを通信にして発信し、参考にしてもらうことで授業改善に向かう人を少しでも増やしたいという思い。
- 担当者が学んできたことを発信して先生方の授業改善に少しでも役立ててもらいたいという思い。
- 先生方が学ぶ意欲を出していただきたいという思い。





## 千早小吹台小学校の研修に参加してきました

7月22日に千早小吹台小学校の「探究について」をテーマにした研修に参加させてもらっていました。

理科での探究学習に興味をもっているので、ぜひ参加させてもらいたいと言って塙田先生と教頭先生と一緒に来ました。

講師の先生は、大阪教育大学の特任教授 四辻先生で、教頭先生とは大学時代の同期だそうです。

内容は、「子供が探究をしたいと思うときはどんな時?」ということから始まりました。では、皆さん考えてください。どんな時でしょうか?

興味を持っているときであったり、解決しなければいけない課題に直面しているときに探究するということでした。

今、色々な教科で「探究」することが言われていますが、どうやって進めていかなければいけないかわからないという思いの先生方も多くいると思います。

探究学習では子供たちが探究したいと思うように「学びの必然性」が必要であるとおっしゃっていました。

いかに子供たちが、「学びたい」という意欲をもって探究に取り組んでいくかという仕掛けをしていくかがポイントになってくるようです。

興味を持つことは大前提ですが、そんななかでも「課題が自分に関係していること」や「解決できそうなこと」もポイントになるそうです。何も知識がない中で探究を進めていこうとすると、知らないことが多すぎて興味もわかないし、探究しようという考えには至らないようです。

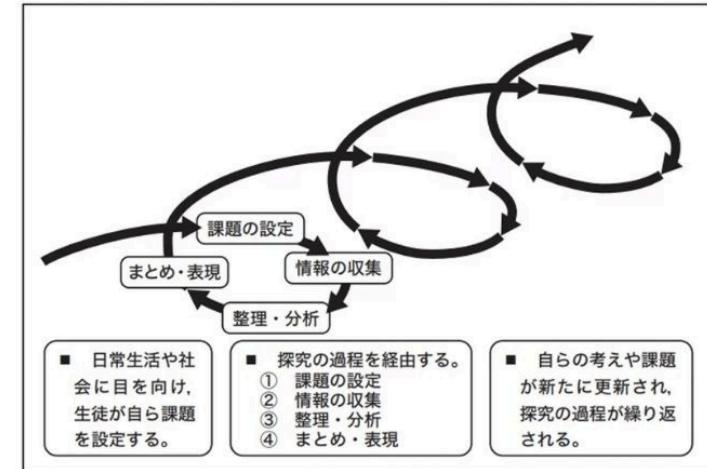
そう考えると、千赤スタンダードの「考える・書く・伝える」で考えている思考力を高めるために、まずは知識の定着を伸ばしていく方向性は探究にも通じているのではないでしょうか。(無理やり?)

私が一番大切なと思った部分は、『学びの必然性』を考え続ける教師でいることと、「教師主導で子供主体」であるということ。

授業の中でも目標を考える段階で、「子供たちが本当にしたいと思えるか」を問しながら授業づくりすることと、探究といつてもすべてフリーで行うと収集がつかないので、手綱は教師が持っているけれども、子供が興味をもち、やりたいと思えることを実践していくことも必要だと感じました。

私自身は授業の導入の段階でちょっとでも「知りたい!」「学びたい!」と思える授業ができるかをもう一度自分自身に問い合わせながら授業づくりをしたいと思いました。

もう一つ必要なことは、教師自身が探究者であることだと感じています。ずっと変わらない教育方法で果たして「生徒たちは『学びの必然性』を見出そうとするのか」ということを考えられる教員であることが必要だと思います。皆さんもぜひご自身のアップデートのために一緒に探究を学びませんか?



## 「考える・書く・伝える」の実践～国語編～

教頭先生が1年生の国語の実践を参観されて、「考える・書く・伝える」だったよ～と教えていただきました。そんな実践を紹介します。

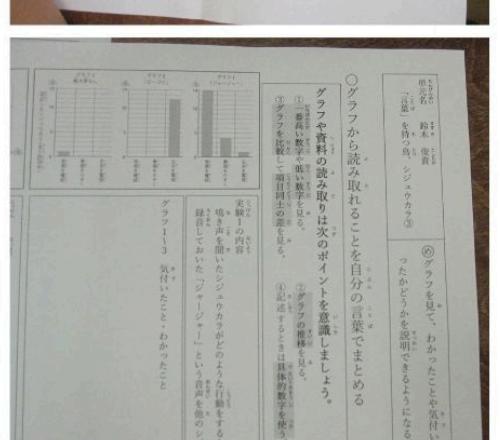
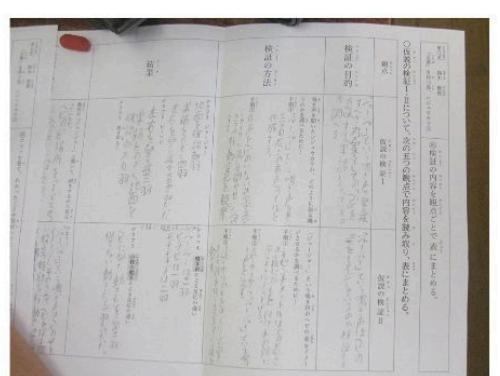
「筋道を立てて根拠を明らかにしながら伝え合う」という単元の「言葉」をもつ鳥、シジュウカラという文章で、データ(グラフ)を読み取り、仮説を検証したこと自分の言葉で表すという授業でした。本文の内容は、筆者がシジュウカラを見ていて、普段鳴いている声と敵(ヘビ)に対して鳴いている声が違っているのではないかという仮説をたててシジュウカラの観察行ったときのデータをグラフであらわしたものから仮説を検証した。そこから出た疑問から他の実験を行ってとったデータから仮説が正しかったかどうかを導き出した。というものです。

この文章から、検証する目的・方法・結果を自分の言葉でまとめるプリントと、観察や実験の結果を表したグラフから読み取れることを自分の言葉で書くプリントを作つて授業を行つてきました。

グラフを読み取るために、生徒が考えやすくするために、何を比較すればよいのかを「ポイント」として書いていました。

これから、探究したものをデータ化し、そのデータから何がわかるのかや、そもそもその目的や方法を主体的に考えるための思考力を養うとしても素晴らしい授業だと思います。

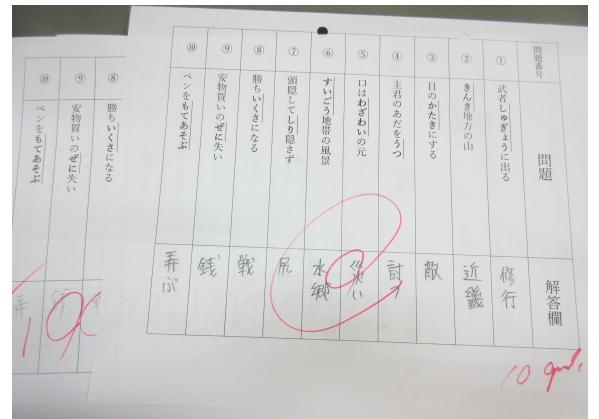
見に行きたかった~~~~~!



# 各教科での取り組み（一例）

「知識・理解」を定着させることを意識した授業

## 国語



漢字勉強5分→漢字小テストを繰り返し行う。  
チャレンジテスト前は、合格点を取れるまで同じ小テストを繰り返し行う。

## 社会



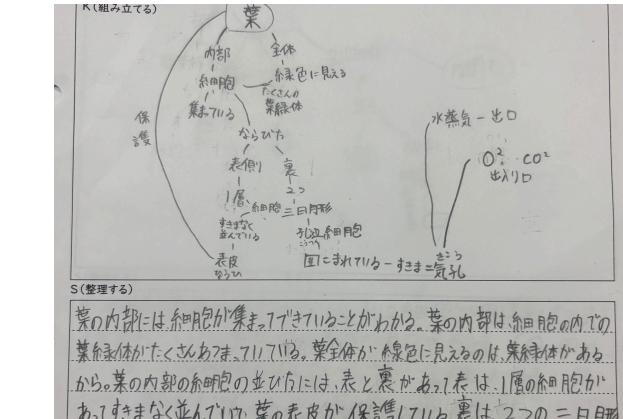
やつたらできる！と思わせるスマールステップと定期テスト。  
授業でチャンスを活かして既習事項を復習。  
宿題や実力テスト、小テストなどを活用した繰り返し学習。

## 数学



- ・「めあて」と「ふりかえり」の徹底を習慣にし、意識を持ち学習に取り組む。
- ・一つの解法だけでなく、他の解き方を模索しながら、より良い方法を考える。
- ・授業の始めに計算ドリルをやり、計算力を定着させている。

## 理科



- ・各単元の初めにキーワードを調べ、テストをしている。
- ・単元ごとに単元テストを行い、「自分の点数に納得のいかなかつた人が追試を受けることができる。知識を抜き出し組み立てて文章を作るQNKSをとり入れている。

## 英語



- ・ページごとの単語テスト、やり直し提出。
- ・文法学習時にワークシートを使い、練習問題。
- ・シャドウイングでの音読。など

# 各教科での取り組み（一例）

「知識・理解」を定着させることを意識した授業

## 音楽



ICT（授業スライド）の活用。授業プリントの内容とスライドの内容を完全に一致させることで、書くべき場所と内容を分かりやすく提示している。

## 美術



鑑賞授業をした後、夏休みの宿題などでパソコンなどを使って自分で調べて、文字だけなく絵や図も使って、わかりやすく、見やすくレポートを仕上げる。

## 保健体育



教科書に、ライン ⇒ 授業の最後にチェック質問  
知識を授業で教えたのちの授業で、自分で何が重要かを考えてノートに記入。その後、生徒同士で口頭で問題の出し合いをして知識の定着をさせている。授業の冒頭で教師から一斉に復習の問題も口頭で行う。

## 技術・家庭



プリントの開いている部分を自分で教科書から探し出し埋める。わかりやすく、図で示したりする工夫をしている。

# 各教科での取り組み（一例）

「思考・判断・表現等」を養うことを意識した授業

## 国語



- 物語を読む際には、キーワードを固定して感想を書かせたり、物語を色で表現したりする授業を入れています。併せて理由も考えさせる
- 授業中の発言でも、授業プリントでも「なんで？」を多用

## 社会



- とにかく考えて書く課題に取り組む。興味を持てたり取り組みやすい多答の課題になるように意識
- 答えが教科書に書いていないような問題を設定し、友達と相談したり、自分で考えないと出来ないような問題を解くようにさせている。

## 数学



- 答えの正解は勿論だが、そこに至るまでの過程にこだわる。
- 生徒同士で教え合うよう声掛けしながら見守る。

## 理科



- 各単元で教科書で設定されている「探しQ」を仮説→実験→結果→考察の流れを提携している。
- 1年に1回自分で課題を設定して解決する「探究」活動を実施している。

## 英語



- ALTを中心とした授業での言語活動。
- 与えられた課題での英作文。
- スモールトークで自分のことを話す。など

# 各教科での取り組み（一例）

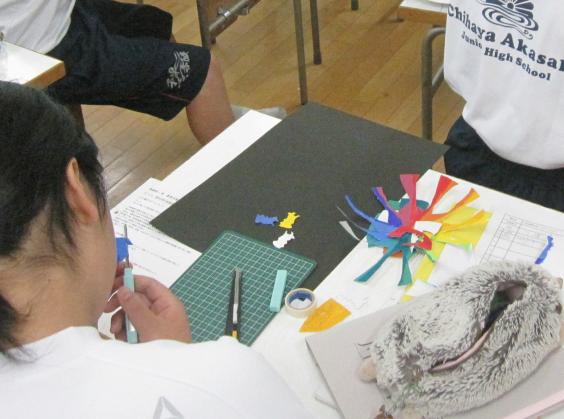
## 「思考・判断・表現等」を養うことを意識した授業

### 音楽



(音楽の鑑賞の授業において) 知覚したことと感受したこととを関わらせて感想を書く際に、言語化の手助けとなる音楽的語彙力を補強するためのシート(語彙一覧)を渡し、参考にさせている。

### 美術



制作を行うこと。(特に立体作品)  
(例:粘土などを使って人物を作る授業。課題の一つとして躍動感を表現する)

自分で何を作るのかを考える。題名を決める。どのように表現したいのかを考えながらものを作る。いろんな視点から「モノ」をじっくり見ることで、表現方法、材料の使い方を考えて、実際に制作を進める。作ったものを自分の目で確認しながら、どうしたらよくなるか考えて積み重ねていくことができる。振り返り、まとめも書く。

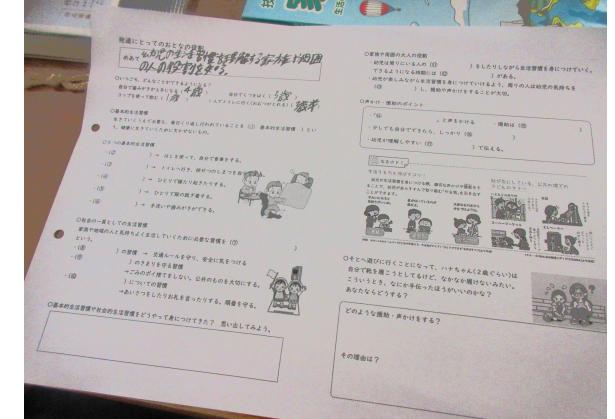
### 保健体育



・「短距離走のタイムを上げるためにには、どうしたらいいだろう?」と考える時間を作っている。

・実技の内容も授業でワークシートを実施し、考えを表現できるよう工夫している。実技の授業では、プレイを止めて「どのようにプレイしたらうまくいくか」「どのような視点を持つとプレイしやすいか」をディスカッションする場面もある。

### 技術・家庭



・周りと相談しながら実習に取り組む

# 成果と今後の課題

- ・知識をつけるためには課題を「くり返し学習する機会」を授業や提出課題で設けることが有効である。
- ・チャレンジテストだけではなく総合的に学力の定着を分析する必要もある。
- ・教科によっては知識の定着ができてきているのでこれから思考力を高める授業にも重点をおいて行っていきたい。
- ・定着できていない教科では、他教科から学び、生徒が知識定着できる手立てを考え、実行する。
- ・「未来プラン」との関わりを考えながら研究課題を設定していく。(コミュニケーション力?)



ありがとうございました。